

竹灯籠の除夜会

12月31日
(大晦日)
夜9時頃より
於:法輪寺境内



※雨天の場合は中止することがあります

本年初めてのこのころみとして、梅鶯仏教壮年会主催によります《竹灯籠の除夜会》を開催致します。法輪寺境内いっばいに敷きつめられた竹灯籠の柔らかい光につつまれながら、行く年を省み、来る年を望み、除夜の鐘をつきましよう！温かいぜんざいも用意致します。ご家族揃ってお越し下さい。

シルクロードの旅を終えて③ 監事 森勝昭
6月24日(四日目パート2)
トフルファン駅は美しく清掃が行き届いており、ここから楽しみにしていた寝台列車での移動。
車(2階建ての新型寝台)に乗り込んだ。窓の外はまた砂漠の景色ばかり。
食堂車にて夕食会。
広島(くまらじゅう)いよいよ鳩摩羅什(くまらじゅう)の地、亀慈国(きじこく)クチャへ。
約20分遅れで到着。外は小雨、ホームへ降りたら半袖では寒いくらいだった。
6月25日(五日目) 鳩摩羅什(くまらじゅう)のキジル千仏洞(クチャ)へ。
鳩摩羅什(くまらじゅう)といえ、玄奘三蔵と同じくインドから持ち帰った仏典を翻訳し、偉大な業績を残された方である。
バスで移動中、雨が降ってきた。めったに降らない雨に恵まれ、皆で拍手。緑美しいポプラ並木や天山山脈の雪山が連なっている。

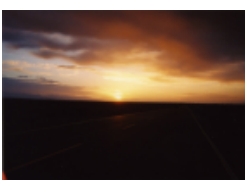


キジル千仏洞



寝台列車

6月26日(六日目) クチャ二日目市内見学。クムトウ千仏洞、クズルガハ千仏洞へ。ここでは大型バスは近くまで行けず暑い日差しを受けながら約20分歩く。つかれた。
問。杏(あんず)の家族の民家訪問。杏(あんず)の家族の民家訪問。杏(あんず)の家族の民家訪問。
樹園や町なかのバザール(露天市場)見学。
6月27日(七日目) クチャ3日目朝5時起床6時出発。天山南路を東へコルラに向かう。朝食は駅弁ならぬバス弁で、パン2個、トマト1個、キユウリとソーセージが丸ごと1本、これが朝食だ。
手間もいらなかったってシンブル。我母ちゃん曰く、「これは良い、これでいこう」。
朝7時、途中砂漠の真ん中でご来光を拝んだ。それは美しい朝焼けであった。
クツシヨンの良かった。
いバスで約5時間、そこから国内便にて再びウルムチへ。カザフ族の南山牧場、ここで馬に乗って牧場内を楽しんだ。代金は35元、日本円で525円である。



コルラ朝焼け

題材法話

◎ 報恩講住職法話

◇「無駄ないのち」ってあるのでしょうか？

以前、リンチ殺人事件を犯した暴走族の少年達に対して、ある裁判官が「君ら暴走族は犬のウンコより悪い。ウンコは肥料になるけれど、君たちは肥料リサイクルできない産業廃棄物以下だ！」といった発言があつた。様々な論議を呼びました。

私は大変驚きました。裁判官といえば知識も教養も豊かで、良識も十分に持つている人のはずで、その人が、何の値打ちも持たない人間がこの世にいるのだと断じているのです。こういう人が「ひと」を裁いていることの驚きです。と、ところが、もつと驚いた

の後の一般社会の反応が「よくぞ云つてくれた」というよう



な裁判官支持の声が多かったことです。ある新聞の論説では、「社会の強いメッセージを少年たちに伝えてくれた。犬のウンコ以下だということとを、少年達に自覚させれば、それが更正の契機にだってなれるはずだ」などと述べられていました。に思いませんか？

◇願われているいのち

確かにこの少年達は、ひとりの少年をむごい方法で殺しました。殺された少年の肉親にとつては憎んでも憎みきれない思いでしょうし、もしも自分の身内だったら、とてもしないでしょう。その時は同じように裁判官に涙で拍手喝采を送ったかもしれません。阿弥陀様は、私達凡夫がひとりの例外もなくお浄土に生まれなくてくれよと願われて



イメージ写真

います。阿弥陀様の四十八願の一つに「悉皆金色の願」というのがあります。「あらゆる人々が、ことごとく金色にかがやかねば、私は覚りを得ません」と、誓っておられます。つまり、「この世の中に無駄なものはない」と願われているのが、私達一人ひとりのいのちなのです。

◇衝撃の親鸞発言

有名な歎異抄という書物に、親鸞聖人とその弟子の唯円坊との間でやりとりがあります。あるとき、親鸞様が唯円坊に云います。「私の言うことならなんでも信じますか？」と。そこで唯円坊は、敬慕してやまない親鸞聖人の仰ることですから、すぐさま、「さんそうろう（もちろんです）」と答えそこで親鸞聖人



は、とんでもないことを仰るのです。「それでは千人の人を殺しなさい。そうすればあなたはお浄土に参れるでしょう」と。これには唯円坊もびつくりして、ほとほと困り果てます。この衝撃の発言にかくされた、親鸞聖人の本当の意図は果たして何だったのでしょうか？

対するすどい問いかけがありました。

以下次号

朝と晩とに忘れずに。私もお礼をあげるのよ。そしてお礼を思ふのよ。いあちんことを。あたことを。

忘れてゐても、仏さま。いつもみてゐて。くださるの。だから、私はさういふの。「ありがと、ありがと。仏さま。」

金子みすゞ